



34-26

*Original from
Department of
Anthropology*

和二十年
雜書綴

第一係

43

SHIPPING
SAC
ITEM

SR10102
Sack 6
ITEM 21

めくれず

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

Miscellaneous Document.

First Section, HOKAIDA Government, 1945.

SA 10102 Sack 6 Item 21

国立公文書館	
分類	① ②
配架番号	3 A
	14
	34-26

めくれず

裏面白紙

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取扱者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午前 後	時	分	信取扱者印

日本國大本營ハ茲ニ天皇ノ命令ニ依リ且天皇ニ依ル一切ノ日本
 國軍隊ノ聯合國最高司令官ニ對スル降伏ニ基キ日本國内外及以
 在ル一切ノ軍司令官ニ對シ其ノ指揮下ニ在ル日本國軍隊及日本
 國支配下ニ在ル軍隊ヲシテ直ニ敵軍行爲ヲ終止シ、其ノ武器ヲ
 擧々、現在地ニ留リ且聯合國最高司令官ニ依リ左ニ指示セラレ又
 ハ今後指示セラレルニ依リ合衆國、中華民國、聯合王國、ソヴィエ
 ト、社會主義聯邦共和國聯邦、各ニ於テ行動スル各司令官ニ對シ無條
 件降伏ヲ爲サシムベキコトヲ命ズ指示セラレタル司令官又ハ其ノ
 代表者ニ對シテハ即刻連絡スベシ但シ細目ニ關シテハ聯合國最高
 司令官ニ依リ變更ノ行ハルコトアルベク右司令官又ハ其ノ代表
 者ト命令ハ完全ニ且即時履行セラレベキトス
 南支那（滿洲を除ク）、臺灣及北緯十六度以北ノ佛領印度支那部
 ニ在ル日本國ノ先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助

長官

陸軍部

外事課長



一般命令第一號（陸、海軍關係）

日本國大本營ハ茲ニ天皇ノ命令ニ依リ且天皇ニ依ル一切ノ日本
 國軍隊ノ聯合國最高司令官ニ對スル降伏ニ基キ日本國内外及以
 在ル一切ノ軍司令官ニ對シ其ノ指揮下ニ在ル日本國軍隊及日本
 國支配下ニ在ル軍隊ヲシテ直ニ敵軍行爲ヲ終止シ、其ノ武器ヲ
 擧々、現在地ニ留リ且聯合國最高司令官ニ依リ左ニ指示セラレ又
 ハ今後指示セラレルニ依リ合衆國、中華民國、聯合王國、ソヴィエ
 ト、社會主義聯邦共和國聯邦、各ニ於テ行動スル各司令官ニ對シ無條
 件降伏ヲ爲サシムベキコトヲ命ズ指示セラレタル司令官又ハ其ノ
 代表者ニ對シテハ即刻連絡スベシ但シ細目ニ關シテハ聯合國最高
 司令官ニ依リ變更ノ行ハルコトアルベク右司令官又ハ其ノ代表
 者ト命令ハ完全ニ且即時履行セラレベキトス
 南支那（滿洲を除ク）、臺灣及北緯十六度以北ノ佛領印度支那部
 ニ在ル日本國ノ先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助

部隊ハ蔣介石大元帥ニ降伏スベシ

四 滿洲。北緯三十八度以北ノ朝鮮。樺太及千島諸島ニ在ル日本
陸ノ先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ極東
ニ於ケル「ソノイニエト」最高司令官ニ降伏スベシ

五 「アンダマン」諸島。「ニコバル」諸島。「ピルマ」。「イ
イ」諸島。北緯十六度以南ノ佛領印度支那。馬來。「ボルネオ」
諸島。印度。「ニューギニア」。「ビスマルク」諸島及「ソロモ
ン」諸島ニ在ル日本陸ノ先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航
空及補助部隊ハ後ニ定ムル所ニ依リ東南亞細亞司令官最
高司令官及激洲司令官ニ降伏スベシ

六 日本國委任統治諸島。琉球諸島。小笠原諸島及他ノ太平洋諸
島ニ在ル日本陸ノ先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補
助部隊ハ合衆國太平洋艦隊最高司令官ニ降伏スベシ
七 日本國大本營並ニ日本國本土。之ニ隣接スル諸小島。北緯三十

八度以南ノ朝鮮及「フィリピン」諸島ニ在ル先任司令官並ニ一切ノ陸上、海上、航空及補助部隊ハ太平洋ニ於ケル合衆國陸軍部隊最高司令官ニ降伏スベシ

前記各司令官ノミガ降伏ヲ受諾スルノ權限ヲ付與セラレタル聯合代表者ニシテ日本國軍隊ノ降伏ハ總テ右司令官又ハ其ノ代表者ノミニ對シ爲サルベキモノトス

日本國大本營ハ更ニ日本國領内及領外ニ在ル其ノ司令官ニ對シ何レノ地ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊又ハ日本國ノ支配下ニ在ル軍隊ヲ完全ニ武装解除スルコト並ニ前記聯合司令官ニ依リ指定セラレタル時期及場所ニ於テ一切ノ武器及裝備ヲ現状ノ備且安全ニシテ良好ナル状態ニ於テ引渡スコトヲ命ズ

別段ノ指示アル迄日本國本土内ニ在ル日本國警察ハ本武装解除條項ノ適用ヲ免ルベシ警察ハ其ノ地位ニ留リ法及秩序ノ維持ニ付其ノ責ニ任ズルモノトス右警察ノ人員及武器ハ規定セラルベシ

- 二 日本國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ本命令受領ノ後一制限時
 間一以內ニ日本國及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ地域ニ於ケル左ノ
 諸點ニ關スル完全ナル情報ヲ提供スベシ
- (一) 一切ノ陸上、航空及防空部隊ノ所在地及階級、兵員ノ數ヲ示ス
 表
- (二) 一切ノ陸、海及民間航空機ノ數、型式、所在地及其ノ狀態ニ關
 シ完全ナル情報ヲ與フル表
- (三) 日本國及日本國ノ支配スル一切ノ海軍水上及潜水艦艇並ニ補助
 海軍艦艇ニシテ就役中若ハ就役シ居ラザルモノ又ハ建造中ノモノ
 ノ所在地、狀態及運行ヲ示ス表
- (四) 日本國及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ總噸數百噸以上ノ商船ニ
 シテ皆テ聯合國ノ何レカニ屬シ現ニ日本國ノ手中ニアルモノヲ含
 ミ就役中若ハ就役シ居ラザルモノ又ハ建造中ノモノノ所在地、狀
 態及運行ヲ示ス表

第一、一切ノ船隻、機雷艇其ノ他ノ陸上、海上又ハ空中ノ行動ニ對スル障害物ノ所在地及配置並ニ右ニ詳載スル安全航路ニ關シ地圖ヲ附シタル完全且詳測ナル情報

第二、飛行機水上機基地、對空防禦施設、港灣、海軍基地、物資集積所、永久的又ハ一時的ノ陸上及沿岸防禦、要塞其ノ他ノ防備地域ヲ含ム一切ノ軍事施設並ニ建造物ノ所在地及説明

(H) 聯合諸國ノ俘虜及被拘留者ノ一切ノ收容所其ノ他ノ拘留所ノ所在地

日本軍及民間航空當局ハ一切ノ日本國ノ陸、海及民間航空機方其ノ處理ニ關シ進テ報告アル迄ハ陸上、海上又ハ陸上ニ留マルコトヲ保障ス

日本國ニ關シ又ハ日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ種類ノ海軍艦艇及商船ハ聯合國最高司令官ノ何分ノ指示アル迄之ヲ毀損スルコトナク保全シ且之ガ移動ヲ企圖セザルモノトス

航海中ノ船舶ハ洪ニ之ヲ無害トスベク且一切ノ種類ノ暴発物ヲ海中ニ拋棄スベシ航行シアラザル船舶ニ於テハ直ニ一切ノ種類ノ暴発物ヲ海岸ノ安全ナル貯蔵所ニ移轉スベシ

五 責任アル日本國及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政官憲ハ左ノ事項ヲ保障スベシ

(イ) 一切ノ日本國ノ機雷、機雷原其ノ他ノ陸上、海上及空中ノ行動ニ對スル障礙物ハ何レノ地ニ在ルヲ問ハズ聯合國最高司令官ノ指示ニ從ヒ之ヲ除去スベシ

(ロ) 航海ニ對スル一切ノ援助措置ヲ直ニ復活スベシ
(ハ) 前記(イ)ノ實現セラルル迄ハ一切ノ安全航路ハ開放セラレ且明瞭ニ表示セラルベシ

六 責任アル日本國及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政官憲ハ聯合國最高司令官ヨリ適テ指示アル迄左記ヲ現状ノ儘良好ナル狀態ニ於テ保持スベシ

(イ) 一切ノ兵器、彈藥、爆發物、裝備、貯品、糧品其ノ他一切ノ種類ノ戰時田具及他ノ一切ノ軍需品（本命令第四項ニ特ニ規定アルモノヲ除ク）

(ロ) 一切ノ陸上、海上及空中輸送並ニ通信施設及資材

(ハ) 飛行場、水上機基地、對空防備、港灣及海軍基地、物資集積所、永久的又ハ一時的陸上及沿岸防備、要塞其ノ他ノ防禦地域ヲ含ム一切ノ軍需施設及建造物並ニ斯ル防備施設、軍事施設及建造物ニ關スル設計並ニ見取圖

(ニ) 一切ノ工場、製造場、工作場、研究所、實驗所、試驗所、技術資料、特許、設計、見取圖及發明ニシテ軍事的若ハ半軍事的機關ニ依リ其ノ活動ト關聯シテ使用セラレ又ハ使用セラレントスル一切ノ戰爭用具並ニ物資及財産ヲ製造シ又ハ其ノ製造若ハ使用ヲ容易ナラシムルモノ或ハ其ノ目的ヲ有スルモノ

七 日本國大本營ハ聯合國最高司令官ニ對シ本命令受領ノ後（制限時

四) 以内ニ前記第六段(四)、(五)及(六)ニ指定セラレタル一切ノ事項ニ關シ其ノ數目、型式及所在地ヲ示ス完全ナル表ヲ提出スベシ

八) 一切ノ兵器、彈藥及戰爭用具ノ製造並ニ分配ハ直ニ之ヲ終止スベシ

九) 日本國又ハ日本國ノ支配下ニ在ル官憲ノ手中ニアル聯合諸國ノ俘虜及被拘留者ニ關シテハ

(イ) 一切ノ聯合國俘虜及被拘留者ノ安全及福祉ニ付テハ極メテ關心ノ注意ヲ拂フベク(脱?)右ハ斯ル責任ガ聯合國最高司令官ニ依リ引續ガルル迄ハ充分ナル食糧、住居、被服並ニ醫療ヲ確保スル上ニ必要ナル行政的及補給的任務當ルモノトス

(ロ) 聯合諸國ノ俘虜及被拘留者ノ收容所其ノ他ノ拘留所ハ其ノ設備、貯藏品、記録、武器及彈藥ト共ニ直ニ右俘虜及被拘留者ノ先任將校又ハ指定セラレタル代表者ノ指揮下ニ入ラシムベシ

(ハ) 聯合國最高司令官ノ指示スル所ニ從ヒ俘虜及被拘留者ハ聯合國

官職ニ引渡チ爲シ得ベキ安全ナル地域ニ輸送セラレベシ

三 日本國大本營ハ本命令受領ノ後（制限時間）以内ニ聯合國最高司令官ニ對シ聯合國ノ俘虜及被抑留者ノ所在地ヲ示ス完全ナル名簿ヲ簿ヲ提出スベシ

十 一切ノ日本國及日本國ノ支配下ニ在ル軍及行政官憲ハ聯合國軍隊

ニ依ル日本國及日本國ノ支配下ニ在ル地域ノ占領ヲ援助スベシ

十一 日本國大本營及日本國常設官憲ハ聯合國占領軍司令官ノ指示アル際一殺日本國臣民ノ所有スル一切ノ武器ヲ蒐集シ引渡ノ準備ヲ爲スベシ

十二 日本國及日本國ノ支配下ニ在ル軍官民ハ本命令及今後聯合國最高司令官又ハ他ノ聯合軍官憲ノ發スベキ一切ノ命令ニ忠實且迅速ニ服従スベシ本命令若ハ爾後ノ命令ノ條項ノ遵守ニ遲滯アリ又ハ右ガ遵守セラレザルキ就ニ聯合國最高司令官ガ聯合國ニ對シ有害ナリト判断スル行爲アルトキハ聯合軍官憲及日本國政府ノ手ニ依リ嚴重且則決ノ處罰ガ加ヘラルベシ

協定文書

一 下名ハ茲ニ合衆國、中華民國及「グレイト・ブリテン」國ノ政府ノ主席ニ依リ千九百四十五年七月二十六日「ボツダム」ニ於テ簽セ
ラレ後ニ「ソウイニト」社會主義共和國聯邦ノ參加セラル宣言ノ條
項ヲ同案照天皇、日本政府及日本帝國大本營ノ命ニ依リ且之ニ代
リ受諾ス右四國ハ以下之ヲ聯合國ト稱ス

二 下名ハ茲ニ日本帝國大本營並ニ何レノ地ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日
本國軍隊及日本國ノ支配下ニ在ル一切ノ軍隊ノ聯合國ニ對スル關係
件協定ヲ布告ス

三 下名ハ茲ニ何レノ地ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本國軍隊及日本國臣
民ニ對シ直ニ發行爲テ終止スルコト、一切ノ船舶、航空機並ニ軍
用及非軍用財産ヲ保存シ之ヲ毀損ヲ防止スルコト及聯合國最高司令
官又ハ其ノ指示ニ基キ日本國政府ノ該機關ノ課スベキ一切ノ要求ニ
應ズベキコトヲ命ズ

四 下名ハ茲ニ日本帝國大立營ヲ何レノ地ニ在ルヲ問ハズ一切ノ日本
國軍隊及日本國ノ支隊下ニ在ル一切ノ軍隊ノ司令官ニ對シテ自身及其
ノ支隊下ニ在ル一切ノ軍隊ヲ指揮シテ除伏スベキ旨ノ命令ヲ直ニ發
スル事ヲ命ジテ給フ

五 下名ハ茲ニ一切ノ官廳ノ陸軍及海軍ノ職員ニ對シテ聯合國最高司令
官ヲ本隊隊官加ノ爲メ總司令ト認メテ自ラ命ジテ又ハ其ノ委任ノ下ニ
發シタル一切ノ命令ヲ遵守シ且之ヲ履行スベキコト
ヲ命ジ且右職官ノ聯合國最高司令官ニ依リ又ハ其ノ委任ニ基キ特
ニ職務ヲ遂行スル事ヲ命ジ且其ノ地位ニ當リ且引續キ各自ノ非難
的職務ヲ行フベキコトヲ命ズ

六 下名ハ茲ニ「ホワナム」宣言ノ條項ヲ遵守スルコト並ニ右
宣言ヲ實施スル爲メ聯合國最高司令官又ハ其ノ委任ノ下ニ聯合國代表者
ニ依リ要求スルベキ一切ノ命令ヲ遵守シ且新シ一切ノ職務ヲ執行ス
ルコトヲ命ズ日本國政府及長ノ義務者ノ爲ニ拘ル

七 下名ハ茲ニ日本帝國政府及日本帝國大本營ニ對シ現ニ日本國ノ
支配下ニ在ル一切ノ聯合以件處及座抑留者ヲ直ニ解放スルコト並
ニ其ノ保護、手當、給養及指示セラレタル場所ヘノ即時輸送ノ爲
ノ措置ヲ執ルコトヲ命ズ

八 天皇及日本帝國政府ノ國家統治ノ權限ハ本降伏條項ヲ附加スル爲
適當ノ諸ムル措置ヲ執ルベキ聯合國最高司令官ノ制限ノ下ニ置カ
ルルモノトス

千九百四十五年 月 日 時
ニ於テ署名ス

大日本帝國天皇陛下及日本國政府ノ命ニ依リ且其ノ名ニ於テ
日本帝國大本營ノ命ニ依リ且其ノ名ニ於テ

龍外秘辨外

昭和二十年八月二十七日

外務省

龍

三

龍

警察

署長



ソ聯機ニ依ル宣傳ビラ散布ニ関スル件

昭和二十年八月二十一日午前十時三十分頃管下浜益村

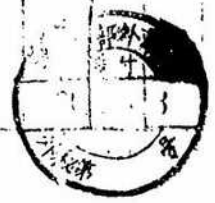
大茅尻苗村上空ニソ聯機一機飛来シテ散布セル

ヲ同日午後一時頃尻苗監視哨員ガ同監視哨附近

ニ於テ拾得為ニ直ニ浜益部長級出張所ニ届出タル

ハ既報ノ如クタルガ今般別紙散布ビラヲ添付此致

及申報候也



15-2

丁卯年五月二十日

外務省

外務省

外務省

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

故に支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

故に支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる

日
支那の領土を侵すは我々の利益に非ざる



オトウサノ！
 ワレワレハアチ
 タクキタクク
 マフテキムス
 キタクサセヨ

16-1
 16-2
 VL 晴 不

北海道
 16-1
 16-2
 VL 晴 不

北海道廳

北海道帝國大學

北大秘第四五六號ノ二

昭和二十年九月六日

外埠員長

北海道帝國大學 總長 今

北海道 長官 殿

備外國人教師解備ニ關スル件

本學ニ於テ雇備中ノ外國人教師賃逸人ヘルマン・ヘツカー、同
ウイリー・クレンプ文部省ノ告示ニ依リ本年八月三十一日付ヲ
以テ解備致候條御了知ノ上、一然御取相 度此段及知候也



タイプライター用紙(甲)

日本標準規格 B5

17

非 密 産 類

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a letter or official document. The text is dense and covers most of the page area.

上海
スアリ

右ハ武精敵國人トシテ小樽抑留計ニ於テ抑留
中國防保安法違反トシテ檢査中ニ始知十九年
二月五日繼續發三年ニ延セラレテ未だ札幌
警察署ニ於テ服役中ニ在リ今別途既報ノ
函ヲ以テ法省ヨリノ電報ヲ受テ其年九月五
日假釈被付ルカニ付セラレタル事ニ當テテ
目下未だ本年ナル利益代表が放棄團下ニ應
申請トシテ不取敢身稱ヲ小樽抑留計ニ移シ
近々浮屠者等ニ在テ抑留者ト共ニ引渡ラセ
スル方針ヲ以テ準備中ナル就而本件ニ對
スル可成ニ付何分此後抑留相懸ニ
尚ホ右ハ上海市パークホテルニ三々番又ハ上海
市ホーセーソン街ニ居居知己ノ許ニ居居相懸ニ交

(北北)

キ希望ヲ有シ居ルモ若シ其方針ノ方針
引渡シテ之ヲ以テ別テ之ニ對シテ方針
ノ引渡シテ之ヲ以テ別テ之ニ對シテ方針
右ハ上海市パークホテルニ三々番又ハ上海
市ホーセーソン街ニ居居知己ノ許ニ居居相懸ニ交

柳留氏名法

国籍	英國	住所	東京市四谷区新設ヶ丘四二
姓	柳留	氏名	小樽市江崎水町三十七番地 小樽柳留氏
通称	オーストリア	生年	生年月日
本名	ジョン・ジョセフ・ホールランド	性別	男
別名	John Joseph Hollans	生年	西暦一九〇七 大七
備考		備考	

GRAND HOTEL
SAPPORO
HOKKAIDO JAPAN
11-9-45

TO WHOM IT MAY CONCERN

THE FOLLOWING IS AN EXACT COPY OF A CERTIFICATE ISSUED BY SURGEON-MAJOR
F.B. WATCH AUSTRALIAN ARMY MEDICAL CORPS AFTER HIS EXAMINATION AND
DIAGNOSIS OF THE CONDITION OF MR JOHN JOSEPH HOLLAND AN AUSTRALIAN
CITIZEN RECENTLY RELEASED FROM IMPRISONMENT AT THE JAPANESE GOVERNMENT
PRISON HANCO MURA SAPPORO.....

" I HAVE THIS DAY EXAMINED MR JOHN JOSEPH HOLLAND AND
FOUND HIS CONDITION TO BE ONE GENERALLY OF EXTREME DEBILITY AND IT IS
ESSENTIAL THAT HE HAS THOROUGH REST UNDER EUROPEAN CONDITIONS. HIS DIET
SHOULD BE LIBERAL AND ONE IN WHICH MILK BUTTER EGGS MEAT AND FISH PLAY
A NECESSARY PART. A FURTHER EXAMINATION WITH X-RAYS AND LABORATORY
FACILITIES IS DESIRED."

(SIGNED) F.B. WATCH
MAJOR AUSTRALIAN ARMY MEDICAL CORPS

I WOULD BE GRATEFUL IF EVERY ASSISTANCE WAS GIVEN MR HOLLAND TO
OBTAIN THE REST AND TREATMENT RECOMMENDED BY THE DOCTOR AS BEING NECESSARY FOR
HIS QUICK RECOVERY AND RETURN TO HIS HOME COUNTRY.

D. KANE
CHIEF LEGATION
HAKODATE



裏面白紙

元四五子九月
輕中俣 入平又自侯翁

陶傳言致

於此海邊政理有かうり、わらん

花衣の礼體中者禮形新所ヨリ家也釋故
也ウレタム オーストリア人 日記ニシヨセフ、ホーランド
ニ對スル オーストリア 新書通リ、有之

又、春日ヨリ日記セフ、ホーランドニシテ、
不ニ、海邊の、静、米、風、ノ、環、境、ヲ、診、察、セ、ル、
食、事、ハ、當、局、ニ、向、テ、申、上、ル、事、ハ、心、算、ヲ、以、テ、
自、身、ハ、實、ヲ、攝、取、セ、ル、事、ハ、心、算、ヲ、以、テ、
健康、ヲ、診、察、セ、ル、事、ハ、心、算、ヲ、以、テ、
オーストリア、海、邊、ノ、政、理、
オーストリア、海、邊、ノ、政、理、

ホトレトビニ、おレ子急ニ、命、ノ、便、業、ヲ、以、テ、
各、為、ニ、必、要、ナル、事、ト、シ、テ、遠、命、ヲ、以、テ、
各、為、ニ、必、要、ナル、事、ト、シ、テ、遠、命、ヲ、以、テ、
各、為、ニ、必、要、ナル、事、ト、シ、テ、遠、命、ヲ、以、テ、

裏面白紙

特高関係第三九號

次

戦争犯罪人ニ関スル件

戦争犯罪人ニ関スル件 政府ハ日本
 トルキキ措置ニ付テ、米國側ト話合、結
 果政府トシテハ聯合國總司令部ニ對シ
 其、指定スル者ニ付テ逮捕シテ之ヲ米國
 側ニ引渡ス責任ヲ負担スルコト、ヤレル
 ヲ以テ右責任、重大性、事柄、深刻
 性トシ、才含ミ、上左記人物ニ付自殺
 防止、逃走防止等警察上萬全ノ措置
 シ構ニ中央ヨリ指示アリ次第逮捕シ
 身柄ヲ聯合國ニ引渡スヘク責任ヲ
 以テ實施 尚服役中、現役軍人ニ

めくれず

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

付、八憲兵隊ニ於テ措置ス。隨ニ復員
セ、軍人ニ付、ハ憲兵隊ノ協カシ
得、警察之ヲ措置スルコト、ナリタ
ルヲ以テ、爲念
記

東條英敏
東御森徳
賀谷興宣
島田繁太郎
岸信介
寺島通世
岩村通喜
井野碩也
小泉親彦

警長警
視野視
ニハニ

付ハ八憲兵隊ニ於テ措置シテ
セハ軍人ニ付ツイテハ憲兵隊ノ協打シ
得テ警察方ニシテ措置スルコトナリタ
ルヲ以テ爲念
記

東條英機
東御藏徳
賀谷興宣
島田繁太郎
岸信介
寺島通世
岩村道喜
井野碩也
小泉親彦

警長警
視野視
庁縣庁

北海道興生會

Sack 6
ITEM 21

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

シヤルズ エイケカズニク少佐 (北海道)

シロモアスロアンチイエンスト (警視庁)

テイエン (佐) オニサン (佐)

アツツツツマヘンドラ (佐)

ホセ ラウレン (奈良県)

ホルゲ マルガス (警視庁)

ベニグー アタ (奈良県)

ハイリリシ スターマー (神奈川県)

アルツツツドクワチメン (山梨県)

マウセフ アルツツツド マイジンカフ (佐)

ワカタニウイキワト (警視庁)

内田 良平 務中 飲五郎 (警視庁)

加藤 下ニヤ 三果 地 五三 五郎

着衣ハ毛糸ヲヤケフ、飛行機、赤草、パンパー、作業ズボン等ニシテ靴ハ
右ノ方ノミ穿テア、着衣ノ盡ク解除シテ（五月）檢ス、腐敗甚シ
ク臭臭、軍ヲ衛、暖部膨脹皮膚腐爛過甚、表皮剥離、
シラ、皮膚脱落、外創ニ表シテ手足、白骨トナリ、膿カニ被覆
筋腱、一部ヲ以テ骨ヲ連結シ、骨ノ状態、河ノ分、傷ナリ
異状ヲ認メ、以上ヨリ、見ル、軍ナル弱北体ニシテ死後四ノ四
回向ヲ経過セルモノト認メラル

水中直ニ同前ニ浴テ着衣ト共ニ火葬ニ附シ遺骨ハ増ニ河大宇
別河右ナル海吾等ニ送還、遺骨供養ヲナシ、雨後毎日朝
ニ四九供養ヲ續ケル上八月ニテ増ニ河改内村井書記在
札幌北郊軍司令部ニ送還セルモノナリ

以上

(北札)

第九號様式 回議書 甲

完結
日類集編
限年存保

至急

合議 経過	主務課	課	月	日	月	日	課	月	日	課	月	日
	課	月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	日
第	號	年	月	日	決裁	日	課	月	日	課	月	日
昭和二十一年	九月	二十	日	起案	外務	課	主査	と	取	送	査	印
昭和二十一年九月廿日 日施行												
昭和二十一年九月廿日 日施行												
昭和二十一年九月廿日 日施行												

報

旧暦者警保局保安課長宛

我軍犯罪遺物ノ一本を呈ニテ

望報安キ

ジョン・ジョセフ・ポーションドハ本日より午後二時
米リッパ利憲兵大尉同行 飛行機ニテ
午更向ケ奉致ナク本巻セリ 不審深矣

電報寫

二〇一九一九

北海地方總監府
海軍部

第一八五〇番電

大警參謀長宛

北東方面各部隊

通報 第五方面軍 第五船舶司令部

米艦隊ヨリ左ノ通告アリ 關係各部ニ通報アリ度

青森及本州北部進駐ハ恐ラク九月廿七日ヨリ二日間ニ亘リ

實施セラレベク進駐日ヲ右日ト定メ確定セバ更メテ通告ス

一上陸前日本軍隊ハ橋頭堡附近ヨリ撤收スベシ橋頭

堡地区トハ青森連絡船棧橋ヨリ堤川東方四五〇ヤド

ニ至ル地點ナリ

二全連絡船ハ右日三〇〇ヨリ右日正午ノ間函館ニ碇泊

スベシ

三全日本船舶ハ右日二〇〇ヨリ右日八〇マデ津輕海峡

めくれず

陸奥海灣及青森灣入口ニ近接スベカラズ
 (四) 日二二〇以前全船小形船及舟艇ハ青森沿岸
 地帯及同附近ノ全諸船置場ヨリ立退クベシ
 (五) 全日本航空機ハ九日及廿日上陸地點ヨリ六哩半徑
 内ノ飛行ヲ禁止スベシ
 (六) 輸送船岸壁横付ノ爲水先案内人ヲ伴フ日本兵
 船四隻ヲ用意シ且九日一〇〇〇青森沖合ノ米國海軍
 最高指揮官ニ出頭スベシ
 (備考)
 進駐ニ伴フ視察團九月二十日青森到着予定
 (終)

大瀋警備地区ニ於テ

合衆國海軍大瀋警備地区緊急進駐命令第一號
 一 北緯四度三〇分四二度間緯度一三九度同四二度間ニ本
 州及北海道ニ合マルル諸島ハ大瀋警備地区臨時進駐地区ト
 シテ宣言セラル
 二 大瀋警備地区ニ於テ日本陸海軍政府當局ハ茲ニ示サレタル條
 文並ニ一九四五年九月六日東京湾内合衆國コミニスリー號上ニ
 於テ日本天皇日本政府日本本營並ニ聯合國代表依リ
 調印セラルル降伏文書及陸海軍一級命令第一號及第
 二號並ニ聯合國最高指揮官依リテ布告セラレ復合ニ於テ
 明示セラルル降伏條件ヲ確實且嚴格ニ履行スベキ責
 任ヲ有ス
 三 大瀋警備地区臨時進駐地区ニ於テ全船空部隊ヲ含ム一切ノ
 陸海空部隊ハ左記事項ヲ指示ヲ受ケルベシ

何レノ地ニアルコトハ現在地ニ留リ更ニ當司令部ヨリノ
 指令ヲ待ツベキコト
 二 當司令部ヨリ命令セラルル如ク一切ノ武装ヲ解除シ二十四
 時間以内ニ一切ノ武器及裝備ヲ聯合國監督下ニ引
 渡スベク準備ヲ爲レオコフコト
 四 正式日本使節 本命令受領後二十四時間以内ニ右記決
 定地域ニ関スル左記要綱ヲ北太平洋部隊長官ニ手渡スベシ
 a 一 右記一級命令第一號ノ三項ニ同意スル
 右建造物ニ関スル設計並ニ見取圖
 右 更ニ右記ニテ決定セラレタル大湊警備緊急進駐区外、
 他ノ地域即チ北緯三度及以北及北海道並ニ大湊警備府
 支配セラルル地域ニ関シテハ何レノ項ノ項ニ涉リテ明示セラレ
 タルカ如キ表ヲ提供スベシ

五 北太平洋部隊長官ハ我が海軍部隊ノ安全ヲ保證セシムル
 爲ニ必要ナル軍政地區ヲ自由ニ設定スベシ斯ク軍政地區ヲ
 設定セバ直ニ北太平洋部隊長官ハ全聯合軍並ニ適當
 ナル日本關係者ニ指示シ且公布スベシ
 a 軍政地區ノ境界
 b 日本人ノ撤退ニ関スル規程
 c 軍政地區内ニ駐スル日本人ニ関スル規程
 他ノ制定セル規程
 六 日本軍ノ武器並ニ裝備ノ毀損ヲ禁ズ
 七 大艦長官ハ大湊海軍泊地ノ左領ニ便宜ヲ提供シ且北太
 平洋部隊長官ヲフランクリンヤクフレックヤール合衆國海軍
 中將ニ左記地方ノ諸表ヲ提出スベシ
 a 航行可能ニ般海軍船舶

- (2) 航行可能ノ船舶
- (3) 航行不可能ノ海軍船舶
- (4) 航行不可能ノ一般船舶

日本機雷原航行障害物防禦物及現在ノ海軍船舶航行凶悪ニ飛行情報上基地燃料貯藏所並ニ彈藥倉庫ニ関スル詳細ナル情報ヲ十二時向以内ニ北太平洋長官ニ提出スベシ

命令アラハ十二時向以内ニ一切ノ日本陸海軍並ニ一般市民ヲ大湊海軍泊地地域ヨリ撤退セシムル用意ヲナスベシ但シ會談ニ於テ北太平洋部隊長官ヨリ特ニ容認セシメタル人員ハ其ノ限ニ非ズ

本撤退ハ斯ル命令後七十二時向以内ニ完了スベキモトス
 α 北太平洋部隊長官ニ依リ指示セラレタル如ク掃海作業

ヲ開始スベシ

北太平洋司令部ヨリ命令ニ應ズル如ク大湊ニ北太平洋部隊長官ノ司令部設置ノ準備ヲナレオクベシ

北太平洋長官ニ依リ指示セラレベキ時期及場川ニ於テ運

輸ノ便宜ヲ供與レ且北太平洋部隊長官ノ命令ニ應ズル如ク勞力資材等一切ノ便宜ヲ供與スル準備ヲナスベシ

子 聯合諸國ノ捕虜及抑留者一切ノ收容所及其他ノ抑留所ノ所在地ヲ提示スベシ

(又)

合衆國海軍大湊警備地區緊急進駐命令第一號

一北緯四度至分四二度間東經一三九度同一四二度間日本
州及北海道ニ合マル諸島大湊警備地區臨時進駐地區
ルヲ旨言ヒラル

二大湊警備地區ニ於テ日本陸海軍政府當局ニ示サレタ
文並一九四五年九月二日東京場内合衆國コミンソール號上ニ

於テ日本天皇日本政府日本大本營並ニ聯合國代表依
議即セシメ降伏文書及陸海軍一級命令第一號及第

二號並ニ聯合國最高指揮官依リテ布告ヒシレ後念茲
明ホセラレシレ降伏條件ヲ確實且嚴格ニ履行スベキ責
任ヲ有ス

三大湊警備地區臨時進駐地區ニ於ケル航空部隊ヲ含ム一切
陸海軍部隊ハ左記事項ヲ指示ヲ受ケル

陸海軍部隊ハ左記事項ヲ指示ヲ受ケル

何レノ地ニアルコトハ現在地ニ留リ更ニ當司令部ヨリノ指令ヲ待ツベキコト

五 當司令部ヨリ命令セラルル如ク一切ノ武装ヲ解除シ二十四時間以内ニ一切ノ武器及裝備ヲ聯合國監督ノ下ニ引渡スベク準備ヲ爲レオコフコト

四 正式日本使節 本命令受領後二十四時間以内ニ右記決定地域ニ關スル左記要綱ヲ北太平洋部隊長官ニ手渡スベシ
a 一 右記一級命令第一號ノ二項ニ同ジ 但レ
右建造物ニ關スル設計並ニ見取圖
右更ニ右記ニテ決定セラレタル大湊警備緊急進駐以外、
他ノ地域即チ北緯四度以北及北海道並ニ大湊警備府
ニ支那セラルル地域ニ關シテa項ノ項ニ涉リテ明示セラレ
タルガ如キ表ヲ提供スベシ

五 北太平洋部隊長官ハ我が海軍部隊ノ安全ヲ保證センガ爲ニ必要ナル軍政地區ヲ自由ニ設定スベシ 斯ク軍政地區ヲ設定セバ直ニ北太平洋部隊長官ハ全聯合軍並ニ適當ナル日本關係者ニ指示レ且公布スベシ

a 軍政地區ノ境界
b 日本人撤退ニ關スル規程

c 軍政地區内ニ駐スベキ日本人ニ關スル規程
d 他ノ制定セル規程

六 日本軍ノ武器並ニ裝備ノ毀損ヲ禁ズ
七 大艦長官ハ大湊海軍泊地ノ位置ニ便宜ヲ提供レ且北太平洋部隊長官ヲランクシヤクフレックヤール合衆國海軍

中將ニ左記地方的諸表ヲ提出スベシ
a 航行可能ニ般海軍船舶

- (2) 航行可能ノ船舶
- (3) 航行不可能ノ海軍船舶
- (4) 航行不可能ノ一般船舶

日本機雷原航行障害物防禦物及現在ノ海軍船舶航行困難ニ飛行場水上基地燃料貯藏所並ニ彈藥倉庫ニ關スル詳細事情ヲ十二時向以内ニ北太平洋長官ニ提出スベシ

命令ハ十二時向以内ニ一切ノ日本陸海軍並ニ一般市民ヲ大湊海軍泊地地域ヨリ撤退セラルル用意ヲナスベシ但シ會談ニ於テ北太平洋部隊長官ヨリ特ニ容認セラルタル人員ハ其ノ限ニ非ズ

本撤退ハ斯ル命令後七十二時向以内ニ完了スベキトス
 北太平洋部隊長官ニ依リ指示セラレタル如ク掃海作業

ヲ開始スベシ

北太平洋司令部ヨリ命令ニ應ルル如ク大湊ニ北太平洋部隊長官ノ司令部設置ノ準備ヲナレホリベシ

北太平洋長官ニ依リ指示セラルベキ時期及場所ニ於テ運輸ノ便宜ヲ供與レ且北太平洋部隊長官ノ命令ニ應ルル如ク勞力資材等一切ノ便宜ヲ供與スル準備ヲナスベシ
 又聯合諸國ノ捕虜及抑留者ノ一切ノ收容所及其他ノ抑留所ノ所在地ヲ提示スベシ

(終)

合衆國海軍大湊警備地區緊急進駐命令第一號

北緯四度三分四二度間東經一三九度同一四二度間日本
州及北海道ニ含まル諸島大湊警備地區臨時進駐地区
ルヲ宣言セラル

大湊警備地区ニ於テ日本陸海軍政府當局ハ茲ニ示セル條
文並一九四五年九月二日東京湾内合衆國コミンカッパ一號上ニ

於テ日本天皇日本政府日本大本營並ニ聯合國代表依リ
謀即ニセシメ降伏文書及陸海軍一級命令第一號及第一

二號並ニ聯合國最高指揮官ニ依リテ布告セシメ復令ニ於テ

明示セシメ降伏條件ヲ確實且嚴格ニ履行スベキ責
任ヲ有ス

大湊警備地區臨時進駐地区ニ於ケル航空部隊ヲ含ム一切
陸海軍部隊共記事項ノ指示ヲ受ケル

何レノ地ニアルコトハ現在地ニ留リ更ニ當司令部ヨリノ指令ヲ待ツベキコト

六 當司令部ヨリ命令セラルル如ク一切ノ武装ヲ解除シ二十四時間以内ニ一切ノ武器及裝備ヲ聯合國監督ノ下ニ引渡スベク準備ヲ爲レオコト

四 正式日本使節 本命令受領後二十四時間以内ニ右記決定地域ニ関スル左記要綱ヲ北太平洋部隊長官ニ手渡スベシ
a 一 子 一 級命令第一號ノ二項ニ同シ 但シ
此建造物ニ関スル設計並ニ見取圖
右更ニ右記ニテ決定セララルル大湊警備緊急進駐区外、
他、地域即チ北緯四度以北及北海道並ニ大湊警備府
支配區セラルル地域ニ関シテa 項ヨリ項ニ涉リテ明示セラレ
クルガ如キ表ヲ提供スベシ

五 北太平洋部隊長官ハ我が海軍部隊ノ安全ヲ保護センガ爲ニ必要ナル軍政地區ヲ自由ニ設定スベシ 斯ク軍政地區ヲ設定セバ並ニ北太平洋部隊長官ハ全聯合軍並ニ適當ナル日本關係者ニ指示シ且公布スベシ

a 軍政地區ノ境界

b 日本人撤退ニ関スル規程

c 軍政地區内ニ駐スベキ日本人ニ関スル規程

d 他ノ制定セル規程

六 日本軍ノ武器並ニ裝備ノ毀損ヲ禁ズ

七 大艦長官ハ大湊海軍泊地ノ右領ニ便宜ヲ提供シ且北太平洋部隊長官ヲフランクジヤックフレックヤトニ合衆國海軍中將ニ左記地方ノ諸表ヲ提出スベシ

a 航行可能ニ級海軍船舶

- (2) 航行可能ノ船舶
- (3) 航行不可能ノ海軍船舶
- (4) 航行不可能ノ一般船舶

日本機雷原航行障害物防禦物及現在ノ海軍船舶航行凶並ニ飛行場水上基地燃料貯藏所並ニ彈藥倉庫ニ関スル詳細ナル情報ヲ十二時向以内ニ北太平洋長官ニ提出スベシ

命令アラハ十二時向以内ニ一切ノ日本陸海軍並ニ一般市民ヲ大湊海軍泊地域ヨリ撤退セラル用意ヲナスベシ但シ會談ニ於テ北太平洋部隊長官ヨリ特ニ容認セラルタル人員ハ其ノ限ニ非ズ

本撤退ハ斯ル命令後七十二時向以内ニ完了スベキモトス
 北太平洋部隊長官ニ依リ指示セラレタル如ク掃海作業

ヲ開始スベシ

北太平洋部隊長官ヨリ命令ニ應ズル如ク大湊ニ北太平洋部隊長官ノ司令部設置ノ準備ヲナラセヨ

北太平洋長官ニ依リ指示セラレベキ時期及場所ニ於テ運輸ノ便宜ヲ供與シ且北太平洋部隊長官ノ命令ニ應ズル如ク勞力資材等一切ノ便益ヲ供與スル準備ヲナスベシ
 又聯合諸國ノ捕虜及抑留者ノ一切ノ收容所及其他ノ抑留所所在地ヲ提示スベシ

(終)

北海道廳

昭和二十六年六月二十二日

外中課送査部長 今井昌之

外中課長 致

外中課長 致

標本之件ニ関シ日本銀行に照會スルニ
該行側より連送中ニ別紙添付ノ如ク指令
ニ基クモリニ有之

北海道廳

總第一八九號

昭和二十六年九月五日

札幌支店長 殿

總務部長

昨日電信にて御通知申上候通、聯合軍
 の本邦内、於て使用不能通貨ハ一應、日本銀行
 券トスハ、トニ諒解成立、右日本銀行券ハ
 政府、都合ニ依リ、一時本行カ立替ヘ文降、之
 スト、相成候ニ付、之ニ對スル取扱要綱及共
 細目別紙ノ通、御決定相成候向此致及通
 知候也、右ニ細目ニ付テハ、天、疑、七、地、解、合、子
 、希、宝、ニ依リ、適宜変更、實施、シ、差、支、入、無

之要、本要綱ノ線、沿ニテ實行相成度極旨
ニ有之候

追テ貴堂 管四ニ於ケル聯合會庫、費用取扱
銀行ハ北海道拓殖銀行本店ニ次定被致
候間至急司行ニ對シ、其ノ旨通報レ所在
我方連絡機關ト連絡スル採御取付相
成度カ

今石取扱銀行事務取扱方ニ關付テハ十
分監督セラルレ聯合會庫ノ爲メ如キメテ便宜ヲ
供スル採御指導相成度、宛中所需銀行
券ノ調達ニ對シテハ、取扱銀行ノ極力撙節シ
若シ取扱銀行ニ就テ本件費用支拂ハ、
現金不足セル場合ニ於テハ、其ノ也ニ於ケル本行

北海道廳

券許券ヲ使用マンメラレ度ク（昭和十三年一月審決
第一号）券許券取扱要項第一項ニ於テ、場合ニ據
張ノ一ト）
從テ券許券ノ種類ニ付テハ、宛中情ニ應ジテ、
券ヲ用意シ置ク採御取付、意願上候

駐在軍費用立替事務取扱要項

一 日本銀行政付ヨリ、聯合會庫駐在費用立
替ヲ命マラレタルトキハ、假拵全 點定ニ依リ、其
ノ金額ヲ拵上シ日本銀行ニ於ケル當座
豫金 解台庫口金ニ拵込ム
二 日本銀行ハ石振込手續ヲ終ラヌルト共ニ之ヲ
聯合會庫最高司令官又ハ其ノ指定スル員

任者、通載スル下
一、貯蓄金庫、石塚ハ、貸付金、使申セ、トスルトナリ
其ノ使申セ、東京、合、コ、日本銀行、通知、日
本銀行、石、通知、地、在、ル、横、兵、下、金、銀、行、其
ノ、他、日本銀行、託、テ、通、当、ト、認、ス、リ、銀、行、以
下、取、扱、銀、行、ト、稱、ス、石、塚、貸、付、金、送、付、ス、ル、ト
四、日本銀行、ハ、取、扱、銀、行、ニ、付、シ、テ、前、項、ノ、全、額、ヲ
日本銀行、ニ、託、ケ、ル、之、等、銀、行、ノ、為、金、積、金
ニ、撥、込、ス、ル、現、金、ノ、回、送、ニ、依、リ、入、金、ス、ル、ト
五、取、扱、銀、行、ハ、石、入、金、額、ヲ、貯、蓄、金、庫、名、義、ノ、
別、ノ、積、金、點、定、ト、シ、テ、整、理、ス、ル、ト、共、ニ、何、時
ニ、テ、モ、現、金、ニ、テ、支、拂、ニ、應、ジ、得、ル、所、銀、行、券、ヲ
準備、シ、置、ク、ニ、ト

北海道廳

石銀行、為、支、拂、ノ、タ、メ、所、要、ノ、地、ニ、日本銀行
券、ノ、託、券、シ、置、ス、ル、ト
六、本、証、七、書、ハ、別、出、シ、給、テ、取、扱、銀、行、ハ、如、手
（別、口、表、示、ヲ、為、ス）ニ、依、リ、シ、ム、ト、シ、取、扱、銀
行、支、拂、ノ、收、増、ニ、因、ス、ル、計、表、ニ、各、月、之、回、日
本銀行、ニ、報、告、ス、ル、ト
電、報、ニ、。、九、四、
支、店、長、
貴、後、御、台、下、
テ、日本銀行、券、ト、ナ、レ、リ、左、ニ、取、扱、ニ、三、億、円、ノ、内、
併、合、單、ノ、使、申、通、貨、ノ、原、則、ト、シ、
總、務、部、長、

第 三 號

電話用紙 甲

發受第 九 月 十 七 日	號 及 發 信 署 課 名 及 氏 名	發 信 署 課 名 及 氏 名	發 信 午 前 後 時 分	發 信 午 前 後 時 分	發 取 報 者 印 信 取 報 者 印
	外 務 省 長	外 務 省 長			

北 海 道 廳

部長

茶 枝 湯 子 故 老 生 二 國 之 作

陸 路 口 町 物 所 狀 之 草 一 冊 海 關 不 附 九 七 日
江 一 通 陸 一 湯 子 故 老 生 也 以 移 稿 二 件 累 矣 了 現
物 之 湯 子 也 也 了 湯 子 進 向 海 關 報 告 一 冊 亦 志 七 一
區 中 報 修 也

記

陸 路 口 町 物 所 狀 之 草 一 冊

外 務 省 長 官 官 印

海 關 不 附 九 七 日 一 冊 亦 志 七 一

陸 路 口 町 物 所 狀 之 草 一 冊

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取披者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午前 後	時	分	信取披者印

Vertical lines for message content, mostly blank with some faint markings.

北札17

電話用紙 甲

北海道 廳

發受第 號 發信署課名 及氏名 九月二十八日 受信署課名 及氏名 外 事 課 發信午前 後 時 分 受信午前 後 時 分 信取披者印 發取披者印

飛小機事故調査ニ関スル件
標記一件、聞シテ昨十時一機電話報告先カ道
手ニ捜査隊ヲ編成現場ニ赴クベク派遣セリ
然ルレバ日末ノ天候不良(霧及雨)ノ為現場ニ到
着セザルニ至リ候ハレバ一且引揚シタルニ
状況尤記(通リ)

一情報入手各経
市定林野局文書課出張所ニ於テ同所関係
小山田組一人夫(住小石名不明)ヲ飛行機墜上
落事故ナル旨聴取セリ以テ一應飛小機帶室

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午後時分	發取扱者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午後時分	信取扱者印
林野局資料(若小枝)ヲ通知若小枝署ニ届キ出シ 之ルニシテ軍ニ事改アリテ之ニテ詳細タルコト 一捜査隊ノ行跡ヲ以テ 捜査隊ハ若小枝署以下署員三名 憲兵隊四名 連隊一名 帝室林野局干保一名ヲ以テ組織シテ ラツクニテ十七日午後三時半頃若小枝署ニ到リ 若小枝署ニ到リ着テ十日未だ入山スヘク準備ヲ 本十日午前四時若小枝署ニ到リテ天候不変 (豪雨及霧深キ多)ノ下ニ入山シ得ズ止ムナク 天候回復ヲ待ツテトシテ連絡員憲兵隊員一名 ヲ支那湖畔ニ残置シテ帰リ				

北札17

電話用紙 甲	發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午後時分	發取扱者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午後時分	信取扱者印	
一、支那湖畔ニ傳タル情報 現場ヲ目撃スル一人夫ハ山下新田署管内 セツテニ對シ不在ナリトシテ同一帝室林野局支 隊湖去張ルニ渡セルヨリ若小枝ノ連 飛行機ノ墜落場所ハ支那湖畔ニ三里半ノ 山中ニ在リ死体ニ腐乱シテアリ 一、其後ノ支遣 現場ヲ目撃スル一人夫ハ直ニ帝室林野局 支那湖畔ニ呼テスヤ山林野局干保ヲ手記中 ニテ天候回復ト共ニ再々入山スルヘク準備 ヲ教ヘテハツケアリ					

56

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取披者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午前 後	時	分	信取披者印
<p>一、基地 現場目撃者一人夫の情状聴取せしむる詳細 不明なる死体腐乱等も戦争中ニ属する せしむるト思料せしむる日下被我不明機ナリ</p>						

北札17

電話用紙 甲

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取披者印
九月一七日		外事課	受信午前 後	二時	四分	信取披者印
<p>飛小機事故其地ニ関スル件 一、先刻通報アリタル飛小機事故捜査方ニ干シ 千大海軍 航空隊 二、連絡先名 航空隊ニ於テハ一應捜査スルニ付小機 飛小隊ニ於テハ同様捜査スルニ付小機捜査方ニ干シ 三、連絡先名 アリタル旨通報アリ 四、目下千大飛小機ニ乗場中 聯合軍 (付) シンガポール 少佐 五、高田少佐 福井少佐 兼田少佐 本日午後 三時同場出立 宜山少佐 赴キ一泊スル後 廣收答アリ (出立先地ナシ) ヲ視察スル事定</p>						

47

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取披者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午前 後	時	分	受取披者印
<p>三、小樽柳島所ニ取寄せしヤツツ土人柳島 石ニ尋名 空輸ハ本日見込簿ニ多 日三十九号ト思料 九ノル</p>						

北札17

電話用紙 甲

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時	分	發取披者印
九月十九日		及氏名	受信午前 後	八時五十分		受取披者印
<p>米軍機塔載物出盗難ニ関スル件 去ル十七日午才ヨリ札幌花ガ場ニ着陸セル米軍機塔 乗員ハ昨十八日午未十時頃機体検査ノ際左記物 品盗難ニカケラレシ旨届出被シアリタリ</p> <p>記 ビスケット 二箱 鶏一羽分ノ肉</p> <p>尚本件ハ附近不審手ノ為ニ非ズヤト査探中ナルモ未 ク判明セズ</p>						

48

發受第 月 日	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時 分	發取撥者印
		受信署課名 及氏名	受信午前 後	時 分	信取撥者印

本館に於て
 九月十九日
 午後四時五分
 北札17

電話用紙 甲

發受第 九月十九日	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後	時 分	發取撥者印
		受信署課名 及氏名	受信午前 後	時 分	信取撥者印

北海道 廳

朱國飛行機塔東角ノ出頭ニ
 関スル件

本館午後四時頃外國人一名古里石ノ出頭
 セリ新島ニハ友義ノ出頭ニシテ
 先日本國機塔東角ノ出頭ニ
 官小牧野 富田山花館ニ
 宿泊セシメ置キ
 出頭ニシテ
 官小牧野
 富田山花館ニ
 宿泊セシメ置キ

姓名
 官小牧野
 富田山花館ニ
 宿泊セシメ置キ

北海道

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後 時 分	發取扱者印
月	日	受信署課名 及氏名	受信午前 後 時 分	受信扱者印
<p>本件 西ヶ千蔵警部補出立の件に連して千蔵航空 隊末隊中ハサツタ一少佐の通報をトシテニ 本日午後五時、本項 サツタ一少佐 古館大尉 一行、身柄引取、為去入了 同日午後七時、 古館大尉 古館大尉 一、陸軍飛行機並死体、文置 二、陸軍飛行機並死体、文置 ヨサ一タ一少佐の聴取をトシテニ 古館大尉 古館大尉</p>				

北札17

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信午前 後 時 分	發取扱者印
九月二〇日	千大	外事課 長	九時四〇分	佐藤
<p>陸軍飛行機並死体、文置、同二件 古館大尉の管内、文置、同二件 陸軍飛行機並死体、文置、同二件 古館大尉の管内、文置、同二件 サツタ一少佐の聴取の上、文置報告相成 一、陸軍飛行機並死体、文置 一、古館大尉の管内、文置報告相成 古館大尉 古館大尉 ハサツタ一少佐の聴取の上、文置報告相成 古館大尉 古館大尉</p>				

九月二十日の飛行機並死体、文置、同二件
古館大尉の管内、文置報告相成
古館大尉 古館大尉

北札17

發受第	號	發信署課名	發信午前	時	分	發信午後	時	分	發取披者印
及氏名	及氏名	及氏名	時	分	時	分	時	分	發取披者印

Vertical columns of text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

北札17

電話用紙 甲

發受第	號	發信署課名	發信午前	時	分	發信午後	時	分	發取披者印
九月三日	及氏名	及氏名	時	分	時	分	時	分	發取披者印

北海道廳

米國棧墜落機ノ文置其地ノ情報
 一 昔小枝の箱の四ノ墜落申ノ米國棧ノ文置其地ノ情報
 又 過干シ サツター少佐ニ連絡スニ
 * 該機ハアメリカ航機也 サングラフ号沙流ニシテノ
 該機母ハ現在東京海軍部ナリ
 依テ該航機母ヲ或ハ目下函館附近ニ在ル米航機母
 ヲ偵察シテ後ハ小支ハ文置干シテ言明シ得ス
 且 サツター少佐ハ事務分掌係常務兼外ニシテ
 正式ノ文置干シテ言明シ得ス
 本事情ナルヲ以テ現場ハソノ儘保管シ置カシ友ト
 申出アリ

右及申教候也

一 撤布地

函館市

小樽市

二 撤布月日

函館市

昭和三十二年七月十五日

小樽市

昭和三十二年七月十八日

三 宣傳ビラ種類

爆撃地トシテ

函館市 小樽市 其他ヲ

揚託シテ

裏面ニ「日本國民トシテ」ノ記事

アルモノ

四 撤布数

函館市

約三六〇〇〇

(北17)

小樽市

約五四〇〇〇枚

五 回収ビラ数

函館市

約二八〇〇〇枚

小樽市

約三六〇〇〇枚

六 反響

爆撃子定地トシテ函館市小樽市
ヲ記載シテ
三月本報ニ於テ
半ヲ反響ニ帰シテ
函館市小樽市
外
人
自
即

疎開ヲ為スルニ出シ、中民ノ不安ヲ抑
其ノシテ状況ナリ

札幌・大畑

電話用紙 甲

北海道 廳

發受第	號	發信署課名 及氏名	發信年前 後時分	發取撥者印
九	二			
十	日			
		受信署課名 及氏名	受信年前 後時分	信取撥者印

北海道廳長官事務部長宛
川口外事課長

必要有之候ニ付、貴官下ニ於ケル米空軍
ニヨリ撤布セシメ、宣傳セシメ、細心
及、田收數並ニ是ガ民心ニ及ボシ
反響ノ詳細ハ或ルバ、目録的事例
如クハ、ビロカ、如クハ、反響アリ
親查シ、台傳ビロカ、現品存セル
是ヲ添付、九月未迄ニ必着、報告
シタシ

外三秘第一三二號

昭和二十年九月二十一日

北海道警察部長

内務省警保局

外事課長殿

米空軍ニヨリ撒布セラレタル宣傳ビラ
枚數並ニ其ノ反響調査ニ關スル件

九月二十日電報ヲ以テ御指揮相成儀標記ノ件左記ノ通りニ有之
右及申報候也

記

一 撒布地

函館市 小樽市

二 撒布月日

函館市 昭和二十年七月十五日
小樽市 昭和二十年七月十八日

三 宣傳ビラ種類

爆撃地トシテ函館市、小樽市其他ヲ掲載シ裏面ニ「日本國民に告ぐ」ノ記事アルモノ

四 撒布枚数

函館市 約三六、〇〇〇枚
小樽市 約五四、〇〇〇枚

計 約九〇、〇〇〇枚

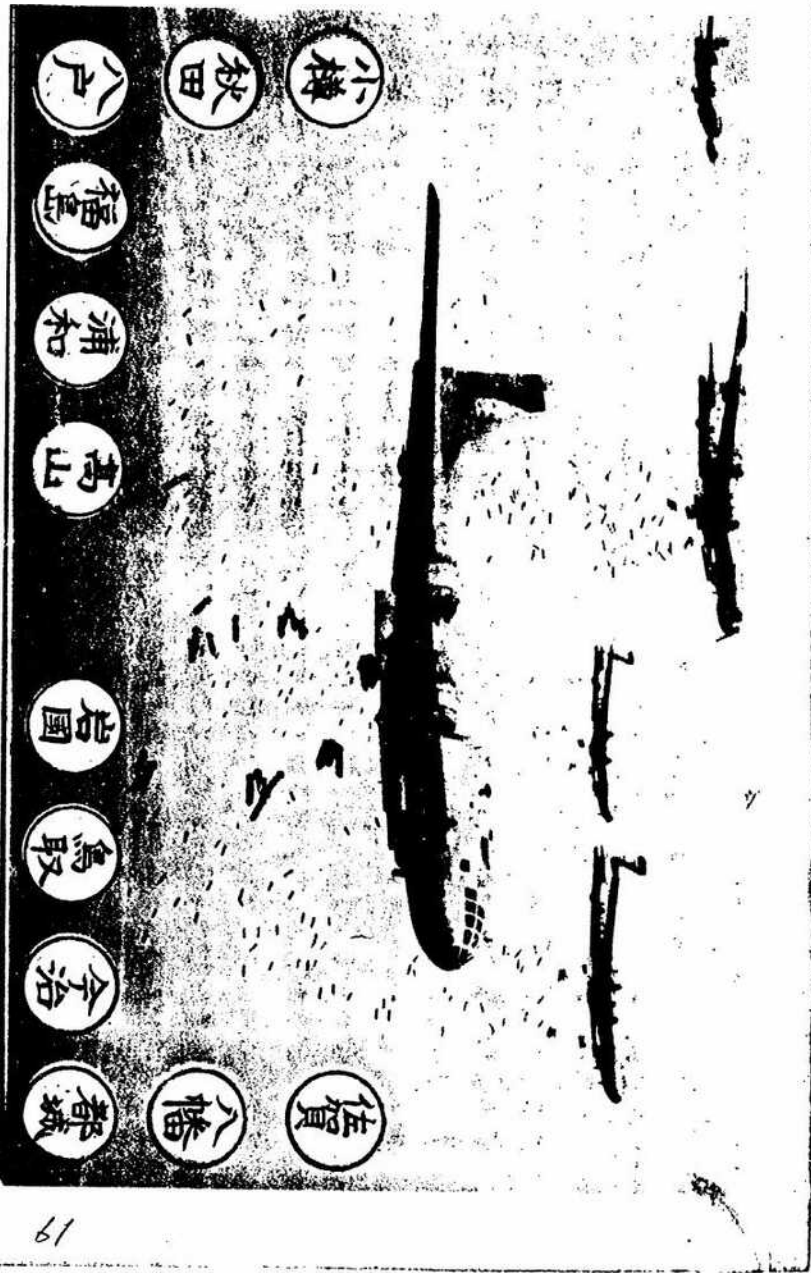
五 回収ビラ枚数

函館市 約二八、〇〇〇枚
小樽市 約三六、〇〇〇枚

計 約六四、〇〇〇枚

六 反響

爆撃豫定地トシテ函館市、小樽市ヲ記載シアリ且全ビラニ記載シアリ青森市ガ爆撃セラレ市街ノ大半ヲ灰燼ニ歸シタル状況ニ鑑ミ愈々函館、小樽モ灰燼ニ歸スルモノト即断シ家財道具ノ市外搬出及人員疎開ヲ爲スモノ續出シ市民ノ不安動搖甚シキ状況ナリ



終戦後ニ對シテハ十分人選ニ當リシテハ...

遺憾ナカラシムルト共ニ關係官公吏及團長等ニ對シテハ克ク終戦事務ノ
重要性ヲ理解セシメ何等的確之カ設案ナル實行ヲ圖ラレ度但シニ事務
ニ當リテハ因循怠惰ニ墮ルカ如キコトナク其ノ能否ヲ明確ニシテ率直ナ
ル態度ヲ以テ折衝シ處置ノ致を適正ヲ期セシメ以テ終戦事務ノ圓滑ナル
進行ニ萬途漏ナキ準備を相成度此等命令及通達候

追而参考ノ爲本月七日發令決定「終戦後連絡事務局地方機關ニ關スル件」
ヲ添付致候

至要ナルニ終戦後連絡事務局地方機關ニ關スル件 (ニルルニ)

終戦後連絡事務局地方機關ニ關スル件ニ行テハ概シテハ要項ニ依リ
後ニ事務連絡事務局地方機關ニ關スル件ニ行テハ概シテハ要項ニ依リ
後ニ事務連絡事務局地方機關ニ關スル件ニ行テハ概シテハ要項ニ依リ

入地ノ事情等ノ動向ニ要スルニ現地事情ニ即應シテ適切ナル措置ヲ
講ジ得ルモノトス

一 京都(第一軍司令部)

(一) 終戦後連絡事務局(以下地方連絡局ト稱ス)ノ設置ス

(二) 地方連絡局ノ局長ハ外務部内高等官中ヨリ之ヲ選任ス

(三) 關係地方總督府ノ保官、陸海軍現地部隊ノ保官、關係府縣又ハ

關係各廳ノ保官ヲ連絡官トシテ地方連絡局ニ派遣シ要スルハ前

條各小省ヨリ之ヲ選任ノ連絡官ヲ派遣ス

二 横濱(第一軍司令部)

一 京都(第一軍司令部)

三 奈良(第一軍司令部)

(一) 地方事務局長ノ設置ハ局長ニ付テハ各部ノ臨會ト同ジ
 (二) 地方事務局長ニ對シ連絡官トシテ關係地方總監督ノ係管、陸海軍
 陸軍部、海軍部、關係府縣並ニ關係各廳ノ係管ヲ兼造ス
 四、 官制 (官制官令等)

(一) 地方事務局長ノ設置ハ局長ニ付テハ各部ノ臨會ト同ジ
 (二) 地方事務局長ニ對シ連絡官トシテ關係地方總監督ノ係管、陸海軍
 陸軍部、海軍部、關係府縣並ニ關係各廳ノ係管ヲ兼造ス
 四、 官制 (官制官令等)

(一) 地方事務局長ノ設置ハ局長ニ付テハ各部ノ臨會ト同ジ
 (二) 地方事務局長ニ對シ連絡官トシテ關係地方總監督ノ係管、陸海軍
 陸軍部、海軍部、關係府縣並ニ關係各廳ノ係管ヲ兼造ス
 四、 官制 (官制官令等)

(一) 地方事務局長ノ設置ハ局長ニ付テハ各部ノ臨會ト同ジ
 (二) 地方事務局長ニ對シ連絡官トシテ關係地方總監督ノ係管、陸海軍
 陸軍部、海軍部、關係府縣並ニ關係各廳ノ係管ヲ兼造ス
 四、 官制 (官制官令等)

(一) 地方事務局長ノ設置ハ局長ニ付テハ各部ノ臨會ト同ジ
 (二) 地方事務局長ニ對シ連絡官トシテ關係地方總監督ノ係管、陸海軍
 陸軍部、海軍部、關係府縣並ニ關係各廳ノ係管ヲ兼造ス
 四、 官制 (官制官令等)

一 参考

終戦連絡事務局地方校構ニ関スル件

(昭和二十年七月四日決定)

- 一 聯合國北方軍司令部ニ對スル請情報ノ提供ニ該管(關係各府ノ定カナル協力ノ下ニ之ヲ行フ)各府ノ便宜供與及其ノ他連絡業務ヲ担ハセシムルヲノ、外務大臣ハ必要ナル地ニ終戦連絡地方事務局(以下地方事務局ト稱ス)ヲ設置ス
- 二 地方事務局ハ終戦連絡中央事務局ノ指揮命令ニ従フモノトス
- 三 地方事務局ノ局長ハ、外務部内高等官(他省ノ官吏又ハ民間人ヲ任用ス)場合アルモ身分ハ官制上外務部内高等官トス。計ヨリ之ヲ選任ス
- 四 關係各府ハ地方事務局職員ノ構成ニ有協力スルモノトス
- 五 地方事務局ハ必要ナル地ニ其ノ出張所ヲ設シルコトヲ得
- 六 關係各府ノ連絡ヲ密ニシ地方事務局設置ノ目的達成ニ遺憾ナク

ヲ期スル為ニ地方事務局ニ終戦地務地方委員会ノ設置ス
大ニ終戦地務地方委員会、委員ハ関係各府、地方総監府、都道府縣
等、関係官ヲ以テ組織シ、委員長ハ地方事務局長ニシテ當ル

備考

昭和ニシテ八一九閣議決定一聯合國軍隊駐屯ニ伴ヒ地方主要地点ニ
連絡折衝機關設置ノ件一ハ之ヲ廢止ス
地方事務局ハ是前ヨリ擴張及市部ニ之ヲ設置ス

SHIPPING PRICE # 10/102
SACK # 6
ITEM # 21